

# わたしの 効果倍増! 教材活用術

## 子どもたちの学力向上と 教職員の業務改善

### 「テスト・ドリルと付属のシステムを活用して」

京都市立七条第三小学校 中村 佳明

#### 1. 学校としての教材選定

4月当初、目下の急務は、山積みの教材サンプルを並べて、テスト・ドリルを選ぶことでした。「しかし、本当にそれでよいのだろうか……」。私は、教頭や教務主任、研究主任、学力向上主任と協議をし、平成30年度に使用するテスト・ドリルについては、前年度採択、それも1社一括採択をするための「教材選定会議」をもつよう指示しました。

たとえば、私達が個人として家電製品や車の購入を計画したとき、カタログを取り寄せたり、店舗で実物を見たり、業者にあれこれ説明を求めたりして、よりよい選択を心掛けます。何でもよいわけではなく、自身や家族のニーズにより近いスペックのものに絞り込んでいくという作業をしているはず、つまり、手にした後の満足度に投資しているわけですね。

教材選定も同じではないでしょうか。それ

は間違いなく、「児童の学習（授業）の充実と学力向上への投資」なのです。なぜその教材を選んだのか、という問いに対する説明責任があることはもとより、保護者からの預り金で購入する教材は、「それを用いて最大限の学習効果を引き出す」責任があるのです。そう考えると、教材のスペックや活用法は、担任個人や学年に一任されるのではなく、教材選定は学校としての意思をもつて行われべきでしょう。

「教材選定会議」に先立ち、私は事前に5つの教材出版社の担当者から聴き取りを行いました。御社の教材を採用することで、児童の学びはどう変化するのか、どのような活用の仕方があり、教員の授業改善・業務改善につながるのか、シビアに問いました。その結果、いずれの業者からも、

・長年の実績と豊富なデータに基づく優れた教材を作成している。

・新学習指導要領や最新の教育情勢を的確に

つかみ、今求められている児童の資質・能力の育成に資する教材を作成している。  
・児童及び教職員の多様なニーズを徹底調査し、改善を積み重ねている。  
・競争原理の中で、他社製品との差別化を図るために、採算度外視で研究開発に向かっている。

というような本気の「熱量」を感じとることができました。袋詰めされているサンプルとリーフレット等の説明だけではわからない詳細な情報を得る中で、私達は、「教材を買う」という発想を捨てなければならぬ、「すぐれた教材出版社のノウハウを私達の実践に取り入れ、成果につなげていく」という発想こそが重要だと改めて思い知らされたのです。

最終選考に残した2社からは、児童にとつてのテスト・ドリルの使いやすさ・わかりやすさは当然のこととして、教員の授業サポート、働き方改革も視野に入れ、

①京都市教育委員会が導入している校務支援システム（C4th）との互換性

②成績入力・管理のしやすさ

③アウトプットされる成績資料のクオリティ

④学習支援機能

⑤学力調査型テスト・活用問題への対応

⑥アフターケア・メンテナンスの充実度

⑦社会科（京都市版）の有無

⑧児童の主體的な学びにつながる特長

というような視点での説明も求めました。こうして、平成30年度は新学社のテスト・ドリ

日々の授業で使う教材や教具。

隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？

このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

ルを一括採択することを全教員の総意で決定しました。

私達にとって、一括採択には、テスト・ドリルの使用法・活用法を全学年で共有できる、同じシステムで成績処理できる、相談窓口が一本化できる等のメリットがあります。また、アフターケアも含め、要望もしやすいと感じています。

## 2. 学力調査型テスト

本校が活用を試みたものの1つが、付録の「学力調査型テスト」です。本校では、夏休み前・冬休み前に、京都市の学力調査の過去問を「七三模試」として実施してきた経緯があります。そこで、年度に2回、実施できるように準備されているこの「学力調査型テスト」を「七三模試」として活用することにしました。

これまででは、全児童分を大量に印刷しなければならず、また採点、誤答傾向の分析にも相当の手間がかかっていました。それだけでも、「学力調査型テスト」の導入は大変助かりました。また、全国学力・学習状況調査さながらの問題用紙と解答用紙が届き、基礎・基本の問題から活用型の問題までバランスよく配



▲七三模試の様子

置されているので、子どもにとっても教員にとっても、学力の定着を試すよい機会となりました。

さらには、成績処理のエクセルソフトがあるため、結果の分析がしやすく、事後の指導に生かせるというメリットもありました。ボタン1つで出力できる個人票を活用すれば、児童・保護者が現状と今後の課題をつかむことができ、面談もしやすくなります。

学年	人数	%	度数分布
計-100	4	100	
計-90	11	90	
計-80	11	80	
計-70	1	70	
計-60	1	60	
計-50	1	50	
計-40	1	40	
計-30	1	30	
計-20	1	20	
計-10	1	10	
計-0	1	0	
計-合計	4	4	
平均			52.5

項目	点数
算数	48
国語	48
英語	48
総合	48
合計	192

項目	点数
算数	48
国語	48
英語	48
総合	48
合計	192

▲個人票の一部

ただ、1回目は4月実施を想定して、前学年での学習内容を基準に作問されているため、7月実施をした本校では、当該学年の1学期の学習状況をつかむことはできませんでした。どのタイミングで活用するのは本校次第なので、今後検討していく必要があります。

## 3. 漢字小テスト用ワークやらくらくノート

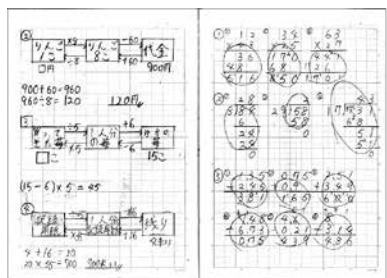
「くりかえし漢字ドリル」には、漢字小テスト用のワークが別売されており、「書き」の定着が確かめられるようになっていました。本校では、1年生から4年生までの購入とし、5・6年生は使っていません。また、「くりかえし計算ドリル」用に準備されている「らくらくノート」も、4年生までの使用として

います。

これは、学力向上委員会で検討し、決定した学校としての方針です。4年生までに取り組み方をしっかり身につけさせるために、別売の教材を用いて指導し、5年生からはそうしたガイドなしでも学んでいけるようにするということです。

5・6年生の漢字小テストは、解答欄だけの用紙を渡し、ドリルの「書き」のページを見て答える回と、指導者の読み上げを聞いて答える回を設けています。前者の場合、児童は解答用紙の提出後、すぐにドリルのページを1枚遡って、自身の解答を確かめています。ドリルをそのまま活用することで、即時にフィードバックする習慣が身についていると思います。また、後者によって、聞く力の向上も目指しています。

「らくらくノート」で身につけた、むだのないノートの使い方は、そのまま生かされます。高学年担任が細かに指示をしなくても、自分でノートに線を引いたり分割したりして計算練習しているのは、積み重ねが生かされているということでしょう。

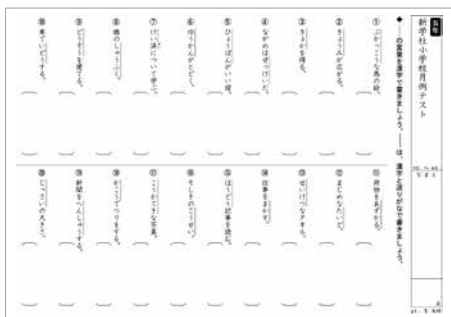


▲高学年の子どものノート

#### 4. 漢字テストのオーダー

練習した漢字を確かめる従来の小テストだけでなく、初見の問題にも挑戦させたいものです。これまでは自作したり、フリープリント教材等を探したりしていましたが、必ずしも学習範囲と合致するとは限りません。

私達は、新学社漢字ドリルの学校一括採択によって、漢字テストのオーダーサービスが利用できます。専用の申込用紙に、出題範囲や問題数を指定し、FAXまたは電子メールで発注することで、近日中に届けてもらえます。本校では、PDFを電子メールで送ってもらうことにしていますが、紙ベースで届けてもらうことも可能です。同じ単元でも、問題の順番を変えて作ってもらえたり、前回の問題を含めて問題数を増やしたりと、本校のニーズを伝えることができるので、繰り返し効果が生かせるということで担任は重宝して



▲オーダーメイド漢字テスト

います。

#### 5. 成績表

本校では、学期ごとの通知票だけでは伝えきれない学習状況を保護者にお知らせしたいと考えたのですが、学期末に、通知票作成と並行して提示可能な副票を作成するのは多忙の極みです。ややもすれば、それに時間をとられ、肝心の授業準備や子どもと関わる時間に影響が出てしまいます。

そこで、「タマROM」から出力できる成績表を活用することにしました。タマROMには、テストを実施するたびに得点入力していくだけです。また、入力項目を増やして小テストの結果や作品評価を加味したり、学習内容によって評価の重み付けを変更したりすることもできます。こうして都度都度入力した結果が、学期末、ボタン一つで成績表になるので、表示項目やレイアウトも加工可能ですし、自動的に反映される用意されたコメントをそのまま使うだけでなく、必要に応じて加除修正することもできます。

こうした



▲副票 ミニ通知表 (国語)

個別配慮に対応可能なところも、タマROMの便利なところですね。

#### 6. おわりに

「教材選定会議」を皮切りに始めた、テスト・ドリルと付属のシステムの有効活用を目指す取り組み。子どもたちの学力向上と教職員の業務改善への投資は緒に就いたばかりです。現在、それぞれの教材がどのような可能性をもっているのかを学校として深く学ぶことの重要性和その効果を、少しずつ実感しているところです。

本校の3年生児童が、夏休みの自由研究で、京都市内の特定の場所を調査してきたという報告をしていました。その子は、動機を次のように書いていました。「社会科のテストに乗っていた地図に、ア・イ・ウ・エ・オと記号が書いてありました。私は、その記号の場所は何があるのか調べたくて、お父さんに頼んで連れて行ってもらいました」この児童にとって、1枚のテストは、興味関心を引き出す「謎解き」のきっかけとなったのです。今後も、教材出版社と情報交換させていただきながら、また職場内で成果と課題を共有しながら、教材の可能性に投資していきたいと思えます。